

登録コード	EKE19600	開講年度	2026			
授業科目	教育課題特別研究Ⅱ				担当教員	谷塚 光典 他
英文授業名	Special Seminar on School Education I				副担当	伏木 久始・林 寛平・宮野 尚・関 浩司・谷内 祐樹
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年
講義室			授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				⇔	【授業の達成目標】
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ					
	教育の専門職としての学識・技能				⇔	教育課題に関する教育の専門職としての学識・技能を獲得する。
	教育現場の諸課題の背景にある関係構造に気づく視点				⇔	教育課題に関する教育現場の諸課題の背景にある関係構造に気づく視点を獲得する。
(2)授業の概要	受講生は各自の関心及び教科領域上の課題に基づき、テーマを設定（問いを立てる）し、研究テーマに造詣の深い教員（複数の）の支援を受けながら、教材分析、情報収集、文献解釈、調査方法・データ分析法を駆使しながら研究・開発を行い、最終的には実践研究論文としてまとめる。資料を比較して利用したり、一貫した議論を組み立てたり、洗練された作品を提示することで、未知の知識を作り出していく学習。研究室での討議の他に、合同での論文構想発表会や報告会を行い、より多角的な視野から研究を進められるようにする。					
(3)授業計画	授業は、個々の受講生の主体的探求にもとづいておこなわれるものであり、研究テーマや進捗状況に沿って支援・指導は行われる。本演習は、①研究テーマの設定、②調査・研究手法の決定、③調査・研究の遂行、④研究論文の執筆方法解説、⑤研究論文の執筆、⑥研究論文の発表とそれにもとづく討論、の各過程からなる。教科課題特別研究Ⅰは、①～③、教科課題特別研究Ⅱは④～⑥を行う。ただし、研究は研究領域・対に応じて多様で、リニアーに進行するものではなく、現場やフィールドとの絶えざる往復が必要。以下はあくまで一つの流れを示した例示に過ぎない。 第 1 回：データを整理する 第 2 回：データを分析する 第 3 回：分析結果の吟味 第 4 回：学術（実践）論文の構成（目次：全体の構造） 第 5 回：論文の執筆作業と点検（問題設定） 第 6 回：論文の執筆作業と点検（先行研究の整理） 第 7 回：論文の執筆作業と点検（分析方法と結果） 第 8 回：論文の執筆作業と点検（結論と考察） 第 9 回：論文の執筆作業と点検（引用・参考文献・資料等も含め全体の吟味） 第10回：論文の推敲 第11回：論文の完成 第12回：口頭報告の準備（資料作成） 第13回：口頭報告の準備（予備練習） 第14回：口頭報告会（口頭試験） ※受講者の実践研究領域や興味関心等に応じて内容や計画を変更することがある。 期末試験の有無 無（最終レポートの提出をもって充てる）					
(4)成績評価の方法	各回の取り組み・発表（30％），及び実践研究論文の内容（50％），口頭報告会におけるプレゼンテーション及び質疑応答（20％），によって評価する。※評価割合は，若干の調整を行うことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可					
(5)履修上の注意	自ら課題を設定し，主体的に研究を進めること。わからないことがあれば質問をする。各自，研究テーマに関連した文献等を国際的な動向を含めて図書館などで検索・収集すること。他の受講者が発表する際には，積極的に意見を述べて討論すること。					
(6)質問,相談への対応および連絡先	オフィスアワー：担当教員への質問・連絡方法は，各自担当教員と相談して決定すること。 なお，開設授業科目一覧掲載の「担当教員のオフィスアワー」を参考にすること。					
(7)成績評価の基準	(i) 問題の設定が適切であり（自らの研究関心に依拠し，新規性・有用性のある問い） (ii) 問題の背景の説明，先行研究との関連づけ・位置づけが的確で， (iii) 課題が明確でありかつ，課題に対する解決策（研究方法：データ収集・分析，フィールド，文献の扱い方など）が適切で (iv) 主張・見解が独創的で，説得力あるかたちで論証（論旨の明快さ，形式，研究倫理）できており， (v) 報告会でプレゼン，質疑応答が適切にできていれば「卓越している」。(i) から (v) の4項目を満たしていれば「かなり上にある」。3項目までできていれば「やや上にある」。2項目までできていれば「水準にある」。					
(8)事前事後学習の内容について	・内容によって，授業日程や開催場所を変更することがある。 ・履修に当たっては，自らの研究課題を考慮し，指導教員と相談の上で決定すること。 ・それぞれの授業で行うことの準備と修正作業を主体的に行うこと。研究テーマは事前に考えておく。					

(8)事前事後学習の内容について	修正点を指摘されれば，自ら問題を解決し修正してくる。調査方法や先行研究など，関連した文献等を，国際的な動向を踏まえて図書館などで検索・収集し，内容を整理し報告する。研究計画書を作成する。 ・この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。
【教科書】	指定しない。
【参考書】	適宜紹介する。